

【世界文化遺産の富士山】

初めての登山 富士山と当時の思い

田 端 実 造

富士山おめでとう！

今年、富士山は世界文化遺産に生まれ変わりました！

昔、昔のお話をするとお笑いになると思いますが、この機会に、私が富士登山をした（昭和27年7月27日）西暦1952年頃の心境を先ずお話しさせて頂き、その次に登山した富士山の昔話を述べさせて頂き下さい。

昭和20年代の社会環境は、生きるのが精一杯で、まだまだ混乱の時期が続き、言葉では表現できない世の中でした。終戦後7年目ですから、食糧難は依然続いていました。その他の物資も貧しい状態でしたし、就職難で、そのような中で人は何を目標に生きたか？合言葉のように日本の復興！復興！のみを信じて頑張っていたのが、吾々と先輩達でした！！

顧みると、月日が経つことで、殆どの人達が、厳しかった社会の事を忘れてしまっているのが残念です。

私が、当時常に考えていたことは、家庭の事情で、待遇が好条件に加え、自分の自由時間が持てる就職先のことでした。このような条件のある就職先は、なかなか難しかったのですが、知人がある日話を持ちかけてくれたのは、米軍関係の仕

事（駐留軍）でしたが、最高の条件を提示してくれるから、希望するならば紹介すると言われ、躊躇することなく面接試験を受け、採用されました。

米軍横浜基地スペシャル サービス（現在の横浜野球場）が初めての職場でありました。

当時、日本の企業にはなかったのが、土曜日休日の制度でした。就業時間は午前7時半で終業は午後4時半、1日の労働時間は、8時間でした。

賃金は日本の企業の50%位高かった上に、更に語学手当（英語・英文タイプ）が支給されました。この手当は試験制度でした。最高は基本給の50%まで支給される制度でした。

私は一生懸命頑張って、10%の手当でスタートし、最後は25%まで資格を得たのを覚えています。この様な恵まれた環境で働きました。

米軍の兵隊達（朝鮮戦争が終った頃）が余暇を楽しむためのスポーツ道具類や楽器類等合計2,000品以上の在庫管理を担当する業務でした。

働く仲間達は、時代を反映してか向学心に燃え、言論の自由になったことが何よりも得難い喜びでした。満足な生活が出来ない面がありましたが、それなりに良い時代でもありました。

民主主義の国になり、先の明るさが見えてきました。そして社会は大きく変わりつつ、政治、経済、文化、恋愛論？等にいたるまで、徹夜で熱い議論を交わした良き時代でもありました。

女性の歌手・女優ときたら歌謡界の女王、美空ひばりでした。男性歌手は近江敏郎、三橋美智也、他多数がまぶたに浮かんでいきます。

また、外国映画が日本に入り始め、私が覚えているのは、“エデンの東”とか“慕情”等です。これらの歌や映画は、当時の青春時代には欠かせない画期的な娯楽であったと思っています。

私は、歌や映画も好きでしたが、それ以上に魅せられたのが、自然を求めて、山登り・ハイキング・旅行・カメラ等でした。

ここから私のテーマである、富士山の登山（今年から“世界文化遺産”になった）についてお話を致します。

現在、富士山に登る方達は、道路が舗装されていて、5合目まで車両で行きますが、私が61年前に登った時代は、そう簡単ではなかったのです。

登ったルートは、御殿場口の太郎坊からで、当時は1合目と言われました。少し強健なコースでした。

昭和27年7月27日。なぜ登山日を知っているのでしょうか？登山の時に使用した金剛杖に登頂した事が押印されていた

ので分かったのです。

午後6時頃から登りはじめ、後に続く人達はポツポツでしたが、細い山道になると人の群れが一連隊のようにつながってきました。

小休止をしながら6合目を超えた付近での出来事です。登っている途中スコールに会い、それは激しい風雨でした。富士山は上に登るほど樹木がない裸の山ですから身体ごと吹き飛ばされそうでした。

山道で天候が急に変わった時は、その場所から動かないのが鉄則でした。慌てると危険なのでじっと我慢し、15分位経つと、突然のようにスコールが立ち去りました。後続達も私同様に待機していました。

突然、嘘のように風雨が止み、見る見るうちに晴天の星空となり、山の天候の早変わりには驚くばかりの経験を身を以て味わいました。いまでも当時の星空の輝きが目に焼き付いています。忘れぬ光景でした。上を見上げると直ぐ傍に明かりがついていました。

そこが7合目の山小屋であり、近いと言っても20～30分位かかったと思います。7合目で小休止して濡れた服を着替えてから、準備万端、上を目指し歩き始めました。

8合目で仮眠し、早朝起床して頂上に向かい、ご来光を拝む予定で登りますが意外に難航しました。8合目から登山道は、溶岩石がごろごろして、登るのは難

航し時間がかかりました。

山頂にたどり着きました。しかし夏でも寒く、飲料水はたいそう高いことだけは覚えています。

ご来光を朱く染めながら昇る朝日を見ながら、ここが日本で一番高い富士山、3,776メートルであると思うと感動し、暫くして感激が湧いてきました。

そこで富士山頂上マップを開いて、浅間神社へ行き、無事と安全を祈願し、参拝してからお鉢周りするか迷った末、翌日の事が有ったので断念しました。

若し、お鉢周りすると、1時間以上かかりますが、360度見渡すことができます。南アルプス連峰、秩父連峰、駿河湾、箱根等の眺望が素晴らしいのが分かっていました。しかし、一旦決心したので下山することにしました。

帰りは山頂を登った同じ道ではなく、大砂走りを選びました。ここで役に立つのが、金剛杖でした。これを使って一挙に砂走りを下ったのが楽しかったのです。

面白いように約7キロの火山地を歩くたびに足首まで沈み、一步が3メートル近く飛びながら下山して、御殿場口に出ることが出来ました。実に爽快でした！

この時代に日本一高い富士登山を達成できたことは、のちの永い人生の糧となりました。ただ、この時残念なことは、カメラがなくて撮影できなかったことでした。

ここで、私の満81歳誕生日の記念と併せて、富士山が『世界文化遺産』に登録された年を祝福しながら、おわりに致します。平成25年11月2日

役割を分担しよう

大田区パソコン同好会の理念は、パソコンを通じ、相互にその研究、習得につとめ、友情を温め情報交換を行い、かつ、地域社会に貢献することに努めることです。先生と生徒がいて、教えていただくだけの教室ではありません。

お互いに、教え教えられ、助け助けられる、協力しながら発展させて行く会です。役割も分担して、それぞれが受け持った役割を担って、総合力で運営する必要があります。少人数でお世話して多くの人が教えていただくというだけでは、会の発展が期待できません。

新年になって記念事業が終われば、来年度に向けて役割分担が議論されます。あなたも推薦されるかもしれません。

推薦されたら、快く受けていただきますように、よろしく願いいたします。